青森市埋蔵文化財調査報告書 第115集

大矢沢野田遺跡

発掘調査報告書Ⅲ

平成 24 年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第115集 大矢沢野田遺跡 発掘調査報告書Ⅲ 平成24年度 青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第115集

大矢沢野田遺跡

発掘調査報告書Ⅲ

平成 24 年度

青森市教育委員会

序

本書は平成23年度に青森市都市整備部道路建設課の委託を受けて実施した市道筒井幸畑団地線道路改良工事に伴う大矢沢野田遺跡の発掘調査成果を中心にまとめたものであります。

これまで、本事業においては、平成11～13年度、20年度にも当委員会が発掘調査を実施しており、縄文時代前期初頭の竪穴住居跡、土坑、焼土遺構などのほか、縄文時代前期中葉の捨て場、縄文時代中期後葉の土坑、平安時代の土坑などを検出しております。また、平成23年度の調査では、縄文時代中期後葉～後期初頭を主体とする土坑・ピットや縄文土器・石器などが出土しました。

本書が今後の埋蔵文化財保護ならびに啓蒙の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、本書を刊行するにあたり、関係各位のご指導・ご協力に対しまして深く感謝いたします。

平成25年３月

青森市教育委員会

教育長　**月　永　良　彦**

例　　言

1．本書は、青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市大字大矢沢字野田及び大字四ツ石字里見に所在する大矢沢野田遺跡の発掘調査報告書である。

2．本書に記載される内容は、青森市都市整備部道路建設課より委託を受けて、青森市教育委員会が平成23年度に実施した市道筒井幸畑団地線道路改良工事に係る発掘調査成果を中心としている。

3．本遺跡については、これまで筒井幸畑団地線道路改良工事に係り、平成11～13年度、平成20年度に発掘調査を実施しており、縄文時代前期初頭、縄文時代前期中葉、縄文時代中期後葉を主体とする遺構・遺物を検出した。

　これらに係る報告書については、平成11年度に青森市埋蔵文化財調査報告書第52集 『大矢沢野田⑴遺跡調査報告書』、平成13年度に同第61集 『大矢沢野田⑴遺跡発掘調査報告書』、平成20年度に同第101集 『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』を刊行しており、これに倣い、本報告書を同第115集『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅲ』とした。

4．本遺跡は、青森県埋蔵文化財包蔵地台帳に遺跡番号201－292として登録されている。

5．本書の編集は青森市教育委員会が行った。

6．出土遺物及び記録図面、写真関係資料は青森市教育委員会が保管している。

7．引用・参考文献は巻末にまとめた。

凡　　例

1．図版番号及び表番号、写真図版番号は本書を通じて連続するものとし、「第○図」、「第○表」、「写真○」とした。

2．遺構の略称は、ＳＫ＝土坑、ＳＰ＝ピットである。

3．図中で使用したアルファベットを用いた略称はＬＢ＝ロームブロックである。

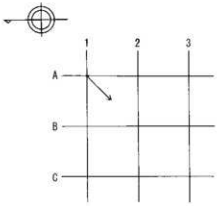
4．挿図の縮尺は図毎に示した。また写真図版の縮尺は統一していない。

5．各種平面図の方位は磁北を示した。

6．土層の注記については、『新版標準土色帳』（小山正忠、竹原秀雄　1993）に準拠した。

7．グリッドの呼称は次のとおりである。

（例：Ａ－１グリッド）



8．図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

地山

炭化物

焼土

目　　次

序
例言・凡例
目次
図表・写真目次
第Ⅰ章　調査の概要 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1
　第３節　調査方法 …… 2
　第４節　調査経過 …… 2
第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 7
　第１節　遺跡の位置 …… 7
　第２節　遺跡の環境 …… 7
　第３節　基本層序 …… 11
第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物（平成23年度） …… 12
　第１節　土坑 …… 12
　第２節　ピット …… 16
　第３節　遺構外出土遺物 …… 17
まとめ …… 20
　第１節　概要 …… 20
　第２節　検出遺構 …… 20
　第３節　出土土器 …… 24
　第４節　出土石器 …… 35
　第５節　土製品・石製品 …… 39
引用・参考文献 …… 40
写真図版 …… 41
報告書抄録

図表・写真目次

図版目次

第１図　遺跡位置図 …… 3
第２図　平成23年度調査区位置図 …… 4
第３図　グリッド配置図 …… 5
第４図　遺構配置図 …… 6
第５図　調査区位置図 …… 8
第６図　過年度分の遺構配置図 …… 9・10
第７図　基本層序 …… 11
第８図　土坑① …… 14
第９図　土坑② …… 15
第10図　ピット …… 18
第11図　出土遺物 …… 19
第12図　竪穴住居跡 …… 21
第13図　溝状土坑 …… 22
第14図　遺物集中ブロック …… 23
第15図　第Ⅰ群土器 …… 24
第16図　第Ⅱ群ａ類土器① …… 26
第17図　第Ⅱ群ａ類土器② …… 27
第18図　第Ⅱ群ａ類土器変遷図 …… 28
第19図　第Ⅱ群ｂ類土器 …… 29
第20図　第Ⅲ群土器① …… 30
第21図　第Ⅲ群土器② …… 31
第22図　第Ⅲ群土器③ …… 32
第23図　第Ⅳ・Ⅴ群土器 …… 34
第24図　第Ⅵ群土器 …… 35
第25図　石器① …… 37
第26図　石器② …… 38
第27図　土製品・石製品 …… 39

表目次

第１表　出土土器観察表 …… 19
第２表　出土石器観察表 …… 19
第３表　検出遺構数（縄文時代前期初頭） … 20
第４表　検出遺構数（縄文時代前期中葉） … 20
第５表　検出遺構数（縄文時代前期末葉～中期初頭） …… 20
第６表　検出遺構数（縄文時代中期後葉～後期初頭） …… 20
第７表　検出遺構数（平安時代） …… 20
第８表　検出遺構数（平安時代以降） …… 20
第９表　検出遺構数（時期不明） …… 20

写真目次

写真１　お祓い状況 …… 2
写真２　検出遺構① …… 42
写真３　検出遺構② …… 43
写真４　検出遺構③ …… 44
写真５　検出遺構④ …… 45
写真６　検出遺構⑤ …… 46
写真７　検出遺構⑥ …… 47
写真８　検出遺構⑦ …… 48
写真９　検出遺構⑧ …… 49
写真10　出土遺物 …… 50

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

青森市都市整備部道路建設課（以下、道路建設課）は、青森市大字大矢沢字野田及び四ツ石字里見地内において市道筒井幸畑団地線道路改良工事を計画した。計画地内には、大矢沢野田遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号201－292）が該当しており、これまで本事業に係り、平成11～13年度、平成20年度に当委員会が発掘調査を実施してきた。これまでの調査の結果、縄文時代前期初頭の竪穴住居跡、土坑、縄文時代前期中葉の河川跡、捨て場、縄文時代中期後葉の土坑、平安時代の土坑等を検出した。

計画地南端には大矢沢地区の墓地が所在していたが、当委員会が平成20年度に墓地移転先の発掘調査を実施し、移転が完了したことを受けて、道路建設課と文化財課で協議した結果、平成23年７月14日～平成23年９月30日の日程で旧墓地の区域等の発掘調査を実施することとした。

第２節　調査要項

１．調査の目的

市道筒井幸畑団地線道路改良工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図るとともに、地域社会の文化財活用に資する。

２．遺跡名及び所在地

大矢沢野田遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号　201－292）

青森市大字大矢沢字野田、四ツ石字里見

３．発掘調査期間　平成23年７月14日～平成23年９月30日

４．調査面積　813㎡

５．調査委託者　青森市都市整備部道路建設課

６．調査受託者　青森市教育委員会

７．調査担当機関　青森市教育委員会文化財課

８．調査指導機関　青森県教育庁文化財保護課

９．調査体制　調査事務局　青森市教育委員会事務局

教育長	月永　良彦	文化財主査	木村　淳一	
教育部長	小野寺　晃	〃	小野　貴之	
理事	工藤　壽彦	〃	児玉　大成（調整担当）	
教育次長	金澤　保	〃	設楽　政健（調査担当）	
文化財課長	吉田　亘	主事	中村　健祐（庶務担当）	
主幹	木村　浩一	〃	三上　貴子	

第３節　調査方法

調査区の一部は工事用道路として利用されており、平成11年度の調査区と重複する部分がある。平成11年度の調査時には砂利等が１～２ｍ盛土されていたことを把握していたため、今回の調査では、重機によって表土処理を実施した。グリッドについては平成11～13年度の調査時に設定したグリッドを参考に、公共座標をもとに調査区全体が網羅されるように４×４ｍのメッシュを設定した（第３図）。各グリッドの呼称については東側に向かってＡ・Ｂ・Ｃ……の順にアルファベット、南に向かって１、２、３……の順に算用数字を付し、両者の組み合わせで呼称した（例　Ａ－１）。測量原点は、道路改良工事のために設置された原点より、調査区の地形等をみて各所へ移動した。

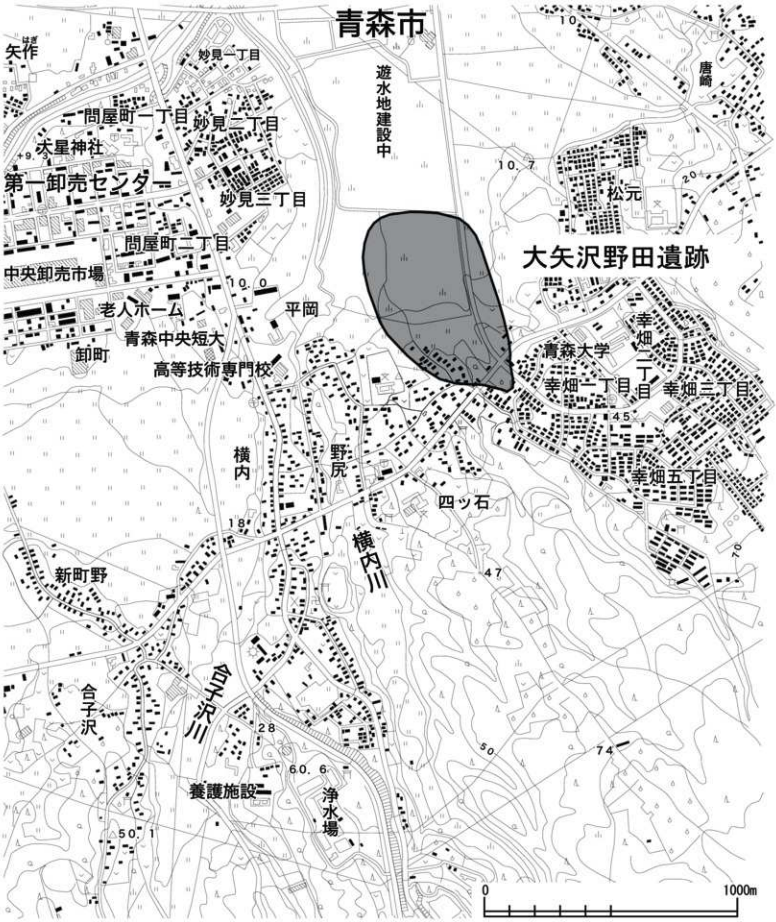
遺構精査は原則として、２分法を採用し、断面図を作成した。平面図作成にあたっては簡易遣り方測量とトータルステーションを併用して作成した。図面の縮尺は基本的に20分の１を採用した。遺物は遺構内、遺構外出土遺物ともに各層毎に一括し、必要に応じて番号を付して取り上げた。写真は土層断面、完掘状況、遺物出土状況を中心にデジタルカメラで撮影した。

第４節　調査経過

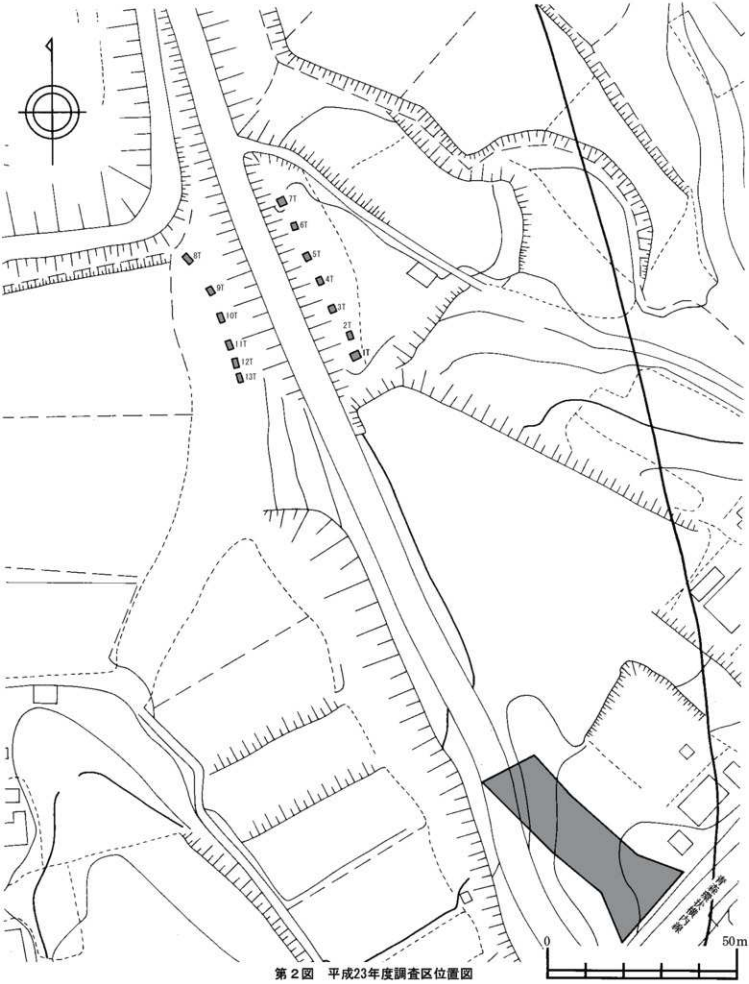
平成23年７月14日に発掘調査開始。プレハブ設置後、機材搬入やプレハブ周辺の環境整備を行った。その後、７月19日より№９～15付近の法面となる道路両側部分についてトレンチ掘りによって調査を実施し、その部分から遺構・遺物は確認できなかった。

翌７月20日には、大矢沢地区の墓地であった地点を着手するにあたって、発掘調査関係者や工事関係者、委託者とともにお祓いを行った。その後、重機により、調査区内の表土はぎを実施し、８月18日からはジョレンがけによる遺構確認を行った。その結果、調査区北側は墓地であったためか、大半が撹乱されていたが、土坑11基、ピット８基を確認した。８月23日からは遺構精査を行い、９月30日にすべての作業を終了した。

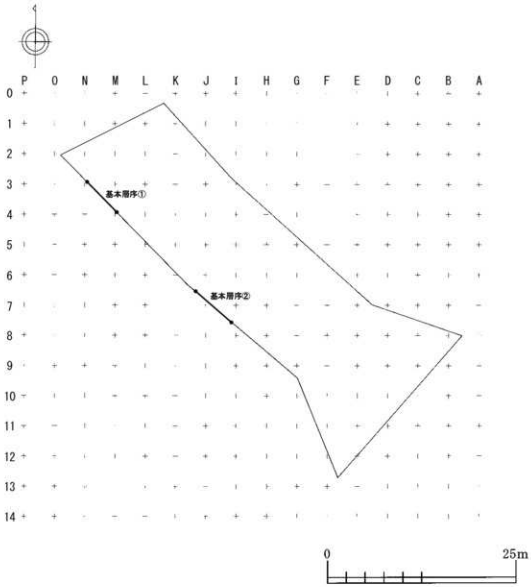
写真１　お祓い状況


青森市
矢作
妙見一丁目
遊水地建設中
唐崎
問屋町一丁目
妙見二丁目
犬星神社
第一卸売センター
妙見三丁目
松元
問屋町二丁目
大矢沢野田遺跡
中央卸売市場
老人ホーム
平岡
青森中央短大
卸町
高等技術専門校
青森大学
幸畑二丁目
幸畑一丁目
幸畑三丁目
横内
野尻
幸畑五丁目
四ツ石
横内川
新町野
合子沢
合子沢川
養護施設
浄水場
0
1000m

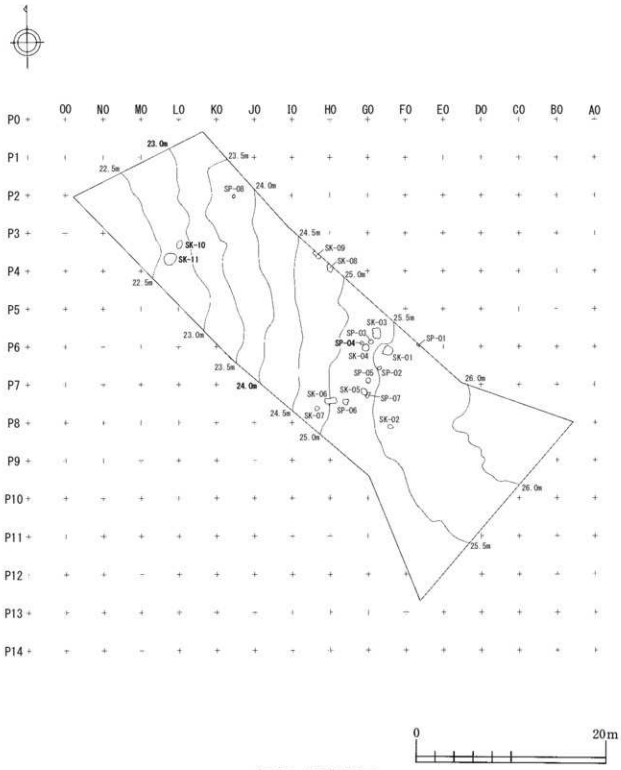
第１図　遺跡位置図



第２図　平成23年度調査区位置図


P O N M L K J I H G F E D C B A
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14
基本層序①
基本層序②
0
25m

第３図　グリッド配置図


N
O0
N0
M0
L0
K0
J0
I0
H0
G0
F0
E0
D0
C0
B0
A0
P0
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
23.0m
23.5m
22.5m
24.0m
SP-08
SK-10
SK-11
24.5m
SK-09
SK-08
25.0m
22.5m
25.5m
SK-03
SP-03
SP-04
SP-01
SK-04
SK-01
23.0m
SP-05
SP-02
23.5m
26.0m
24.0m
SK-06
SK-05
SP-07
SP-06
SK-07
24.5m
SK-02
25.0m
26.0m
25.5m
0
20m

第４図　遺構配置図

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置

大矢沢野田遺跡は青森市南部の青森市大字大矢沢野田、四ツ石字里見に位置している。

青森市の地形は北に青森平野、東～南に八甲田山から続く丘陵地、西に大釈迦山地から広がる状況を呈している。遺跡は、陸奥湾に面して北側に広がる青森平野と南部の丘陵地の境界付近にあたる。遺跡南側の丘陵地は八甲田山火砕流堆積物で構成された火山性台地で、遺跡西側を流れる横内川、東側を流れる駒込川をはじめ、入内川、堤川などによって開析されている。遺跡周辺は主に水田や住宅地となっており、遺跡北側には青森県総合学校教育センターが位置しているほか、国道７号バイパスが走り、南側には幸畑団地のほか、青森環状野内線が走っている。

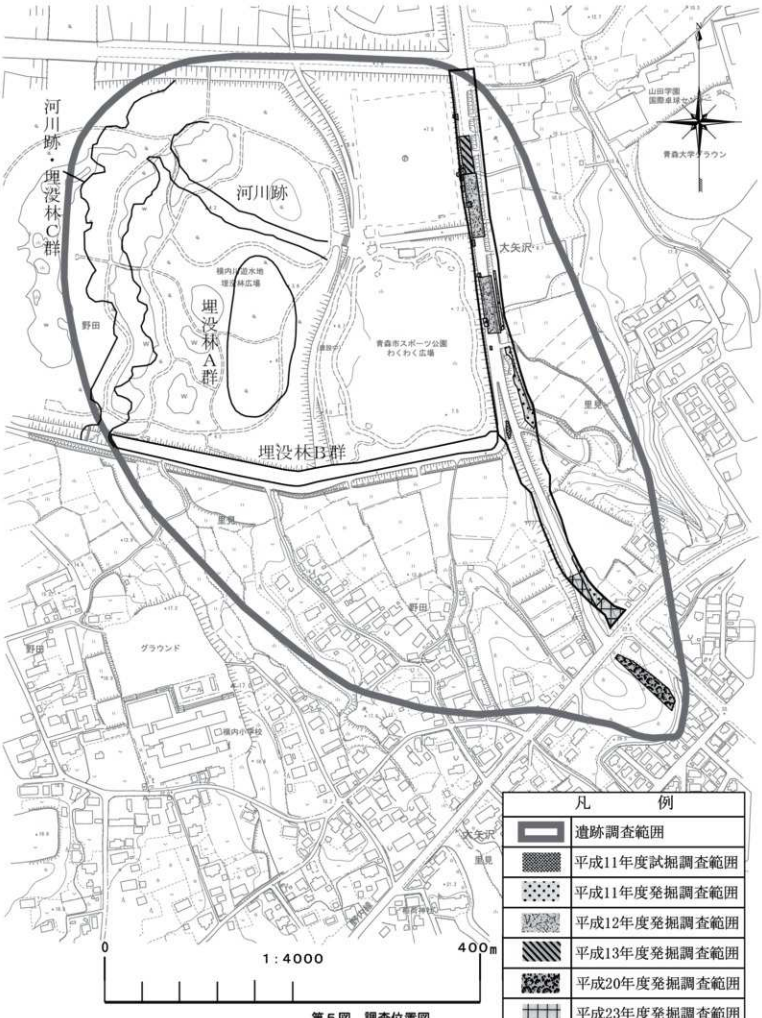
遺跡は、平野と丘陵地の境界付近に立地する地形から、標高８～10ｍの平野部、標高15～20ｍの丘陵縁辺部　標高25～30ｍの丘陵部に分けることができ、今回の調査区は丘陵部に該当する。

第２節　遺跡の環境

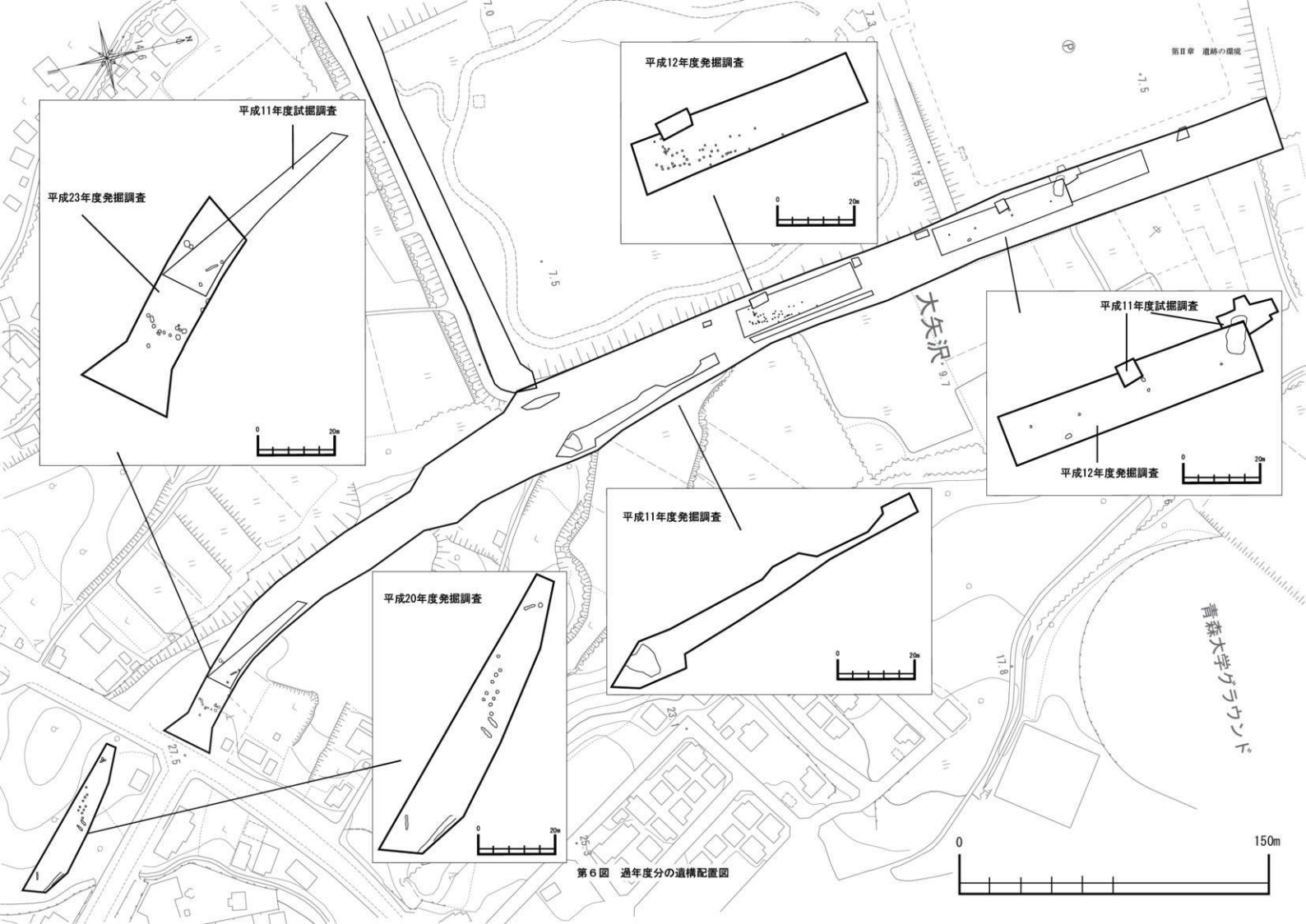
本遺跡における平成23年度以前の発掘調査では、縄文時代前期初頭～中期後葉を主体とする遺構や遺物が出土している。

平成11～13年度に当委員会が市道筒井幸畑団地線道路改良事業に係る発掘調査（青森市教育委員会　2002）を実施しており、平成11年度に検出した縄文時代前期初頭の竪穴住居跡の未調査部分を検出し、縄文時代前期初頭と考えられる焼土遺構、土坑２基、ピット47基のほか、縄文時代前期中葉の遺物集中ブロック、縄文時代中期後葉の土坑１基、溝状土坑１基を検出したほか、縄文時代前期初頭～後期初頭の土器、石器、石製品が出土した。平成20年度に当委員会が市道筒井幸畑団地線改良工事に係る発掘調査（青森市教育委員会　2009）を実施しており、縄文時代前期末葉～中期初頭の溝状土坑４基、平安時代以降と考えられる土坑11基、近現代の溝跡１条を検出したほか、縄文時代前期中葉～中期初頭の土器、近現代の陶磁器が出土した。

平成11～13年度の調査の結果、標高10ｍの平野部では縄文時代前期初頭の遺構・遺物、標高15ｍの丘陵縁辺部では縄文時代前期中葉の遺構・遺物、標高25～30ｍの丘陵地では縄文時代中期後葉～後期初頭の遺構・遺物を検出する傾向が認められたが、平成20年度の調査区から縄文時代前期末葉～中期初頭の土器が出土したように、今回の丘陵地の調査区からも断片的に円筒下層ａ式土器が出土していることから、丘陵地においては縄文時代中期後葉～後期初頭の時期以外の遺構・遺物が検出される可能性が考えられる。


河川跡・埋没林C群
河川跡
埋没林A群
埋没林B群
大矢沢
野田
青森市スポーツ公園
わくわく広場
横内小学校
グラウンド
青森大学グラウン
山田学園
国際卓球セン
凡　例
遺跡調査範囲
平成11年度試掘調査範囲
平成11年度発掘調査範囲
平成12年度発掘調査範囲
平成13年度発掘調査範囲
平成20年度発掘調査範囲
平成23年度発掘調査範囲
0
1：4000
400m

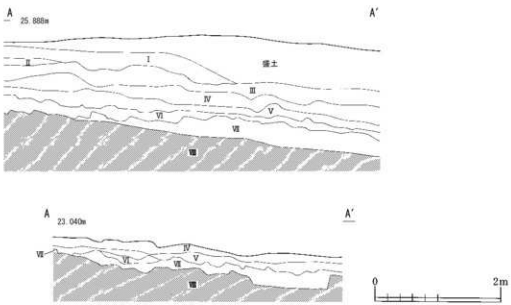
第５図　調査位置図



第６図　過年度分の遺構配置図

第３節　基本層序

本遺跡の基本層序は調査区西壁より２ヶ所観察し（第３図）、８層に分層できる。調査区内の土層は、南側が一部墓地であったため、上層が攪乱されていたが、地点によっては中層～下層はプライマリーな堆積を呈している。前述のとおり、本遺跡ではこれまで４次にわたる発掘調査が実施されており、地点も異なるため、本調査区の層序をこれまでの基本層序に対応させることは難しいことから、本調査区と一部重複する平成11年度Ｃ地区の層序と比較すると、Ｃ地区第Ⅰ層と本調査区第Ⅱ層、Ｃ地区第Ⅱ層と本調査区第Ⅲ層、Ｃ地区第Ⅲ層と本調査区第Ⅴ層が対応すると考えられる。



第Ⅰ層　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロック（φ11～40mm）少量、ローム粒（φ3～8mm）少量，表土。
第Ⅱ層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒（φ1～10mm）中量、炭化粒（φ5～10mm）少量。
第Ⅲ層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒（φ8～10mm）少量、炭化粒（φ3～9mm）少量。
第Ⅳ層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒（φ2～5mm）微量、炭化粒（φ1～4mm）少量。
第Ⅴ層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒（φ2～10mm）微量、中層に暗褐色土（10YR3/3）混入。
第Ⅵ層　10YR3/1　黒褐色土　炭化粒（φ2～3mm）微量，パミス粒（φ3～5mm）少量、黒褐色土とにぶい黄褐色との混合土。
第Ⅶ層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　岸移層。
第Ⅷ層　10YR4/4　褐色土

第７図　基本層序

第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物（平成23年度）

第１節　土坑

土坑は11基検出した。平面形は不整形を呈するものが多い。断面形からみると袋状を呈するもの（SK－01、SK－03）、鍋底形を呈するもの（SK－02、SK－10、SK－11）、円筒形を呈するもの（SK－04、SK－05、SK－07、SK－08）、段を持って立ち上がるもの（SK－06、SK－09）が認められる。

SK－01（第８図）

Ｇ－５・６グリッドに位置する。平面は不整形で、断面形は袋状を呈する。底面はやや西側に傾斜している。規模は長軸36×短軸34×深さ30cmを測る。堆積土は１層で褐色土が堆積し、炭化粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構から遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明であるが、形態から縄文時代に帰属すると考えられる。

SK－02（第８図）

Ｇ－８グリッドに位置する。平面は不整形で、断面形は鍋底形を呈する。規模は長軸29×短軸22×深さ８cmを測る。堆積土は２層に分層した。にぶい黄褐色土が堆積し、ローム粒、炭化粒が混入している。本遺構から遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SK－03（第８図）

Ｇ－５グリッドに位置する。平面は隅丸方形で、断面形は袋状を呈する。規模は長軸52×短軸40×深さ31cmを測る。堆積土は７層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒や炭化粒が混入している。自然堆積と考えられる。本遺構からは縄文時代前期と考えられる土器が１点出土した（第11図１）。１は胴部～底部の土器で、胴部にはＬＲが施されており、内面には炭化物が付着している。胎土には繊維が混入しており、前期の土器と考えられる。したがって、本遺構の帰属時期は縄文時代前期と考えられる。

SK－04（第８図）

Ｇ・Ｈ－５・６グリッドに位置する。平面は円形で、断面形は円筒形を呈する。規模は長軸40×短軸36×深さ18cmを測る。堆積土は４層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒やロームブロックが混入している。自然堆積と考えられる。本遺構から遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SK－05（第８図）

Ｈ－７グリッドに位置する。平面は不整形で、断面形は円筒形を呈する。規模は長軸33×短軸27×深さ12cmを測る。堆積土は１層で黒褐色土が堆積し、ローム粒や炭化粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構から遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SK－06（第８図）

Ｈ・Ｉ－７グリッドに位置する。平面は隅丸方形で、断面形は段をもって立ち上がる。規模は長軸62×短軸33×深さ16cmを測る。堆積土は４層に分層した。暗褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒や炭化粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構から遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SK－07（第８図）

Ｉ－７グリッドに位置している。平面は不整形で、断面形は円筒形を呈する。規模は長軸22×短軸21×深さ10cmを測る。堆積土は４層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒や炭化粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構から遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SK－08（第８図）

Ｈ－３グリッドに位置している。平面は不整形で、断面形は円筒形を呈する。規模は長軸32×短軸28×深さ11cmを測る。堆積土は３層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒や炭化粒が混入している。自然堆積と考えられる。本遺構からは縄文土器の胴部破片が２点出土した（第11図２・３）。２・３ともにＬＲが施されていた。３は一部に縄文が施されており、ほかは無文で、２点ともに薄手の土器である。本遺構の帰属時期は縄文時代後期と考えられる。

SK－09（第９図）

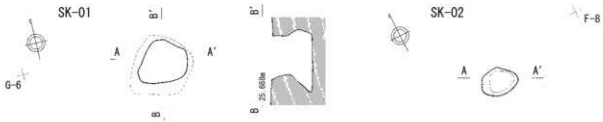
Ｉ－３グリッドに位置している。平面は不整形で、断面形は段をもって立ち上がる。規模は長軸46×短軸14×深さ22cmを測る。堆積土は２層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒や炭化粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構から遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SK－10（第９図）

Ｍ・Ｌ－３グリッドに位置している。平面は楕円形で、断面形は鍋底状を呈する。規模は長軸56×短軸26×深さ７cmを測る。堆積土は３層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構から遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

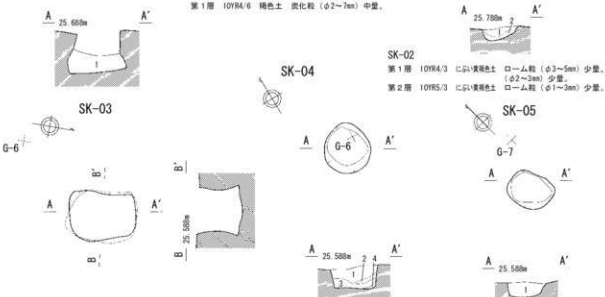
SK－11（第９図）

Ｍ－３グリッドに位置している。平面は円形で、断面形は鍋底形を呈する。規模は長軸69×短軸60×深さ10cmを測る。上層には炭化物や焼土が確認でき、焼土や炭化物を廃棄したと考えられる。堆積土は６層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、焼土やローム粒、炭化粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構からは縄文時代前期と考えられる土器が出土した（第11図４）。４は口縁部の破片である。Ｒ単軸絡条体第６Ａ類が回転施文されており、縄文時代前期中葉の円筒下層ｂ式土器と考えられる。本遺構の帰属時期は縄文時代前期中葉と考えられる。



SK-01
第１層　10YR4/6　褐色土　炭化粒（φ2～7mm）中量。

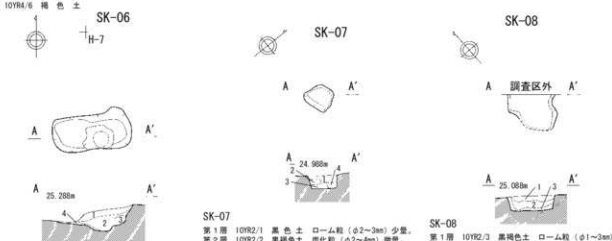
SK-02
第１層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒（φ3～5mm）少量、炭化粒（φ2～3mm）少量。
第２層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　ローム粒（φ1～3mm）少量。



SK-03
第１層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒（φ2～4mm）少量。
第２層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒（φ1～10mm）中量、炭化粒（φ3～5mm）少量。
第３層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒（φ2～10mm）中量。
第４層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム、ローム粒（φ5～10mm）少量。
第５層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　ローム、ローム粒（φ2～6mm）少量。
第６層　10YR4/4　褐色土
第７層　10YR4/6　褐色土

SK-04
第１層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒（φ1～6mm）少量。
第２層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒（φ1～8mm）少量、ロームブロック（φ13～20mm）少量。
第３層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒（φ4～9mm）少量。
第４層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒（φ2～10mm）中量。

SK-05
第１層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒（φ1～10mm）少量、炭化粒（φ2～3mm）微量。



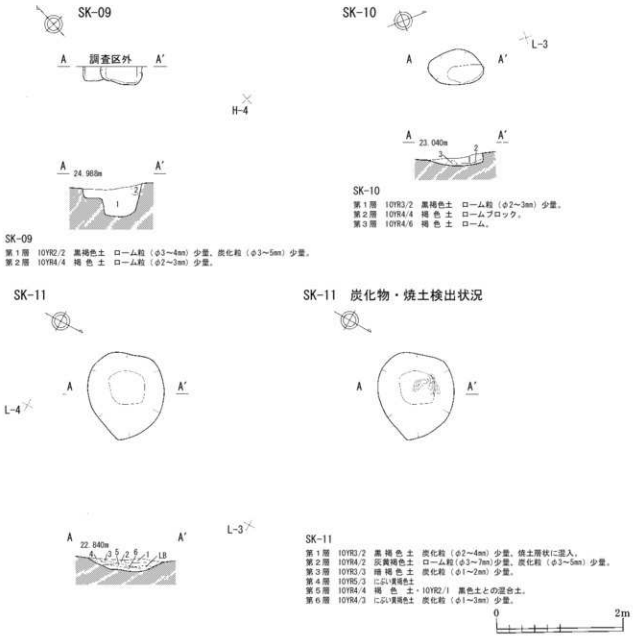
SK-06
第１層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒（φ2～10mm）少量、焼土粒（φ6～7mm）少量。
第２層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒（φ2～5mm）少量、炭化粒（φ1～2mm）少量。
第３層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　ロームブロック。
第４層　10YR4/6　褐色土　ローム。

SK-07
第１層　10YR2/1　黒色土　ローム粒（φ2～3mm）少量。
第２層　10YR2/2　黒褐色土　炭化粒（φ2～4mm）微量。
第３層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒（φ1～7mm）少量。
第４層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒（φ2～5mm）少量。

SK-08
第１層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒（φ1～2mm）少量、炭化粒（φ2～4mm）微量。
第２層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒（φ2～4mm）中量、炭化粒（φ1～4mm）少量。
第３層　10YR4/4　褐色土　炭化粒（φ2～3mm）少量。

0　2m

第８図　土坑①


SK-09
A
調査区外
A′
H-4
A
24.98m
A′
1
3
SK-09
第１層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒（φ3～4mm）少量。炭化粒（φ3～5mm）少量。
第２層　10YR4/4　褐 色 土　ローム粒（φ2～3mm）少量。
SK-10
A
A′
L-3
A
23.040m
A′
3
2
SK-10
第１層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒（φ2～3mm）少量。
第２層　10YR4/4　褐 色 土　ロームブロック。
第３層　10YR4/6　褐 色 土　ローム。
SK-11
A
A′
L-4
SK-11　炭化物・焼土検出状況
A
A′
L-3
A
22.640m
A′
4
3
5
2
6
1
LB
SK-11
第１層　10YR3/2　黒 褐 色 土　炭化粒（φ2～4mm）少量。焼土層状に混入。
第２層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒（φ3～7mm）少量。炭化粒（φ3～5mm）少量。
第３層　10YR3/3　暗 褐 色 土　炭化粒（φ1～2mm）少量。
第４層　10YR5/3　にぶい黄褐色土
第５層　10YR4/4　褐　色　土・10YR2/1　黒色土との混合土。
第６層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化粒（φ1～3mm）少量。
0
2m

第９図　土坑②

第２節　ピット

ピットは８基検出した。平面形は円形を呈するものが多い。断面形からみると円筒形や段を持って立ち上がるものが認められる。

SP－01（第10図）

Ｆ－５グリッドに位置している。平面形は一部調査区外にあるが、円形を呈していると考えられる。断面形は椀形を呈する。規模は長軸21×短軸12×深さ12cmを測る。堆積土は３層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒・ロームブロックが混入している。人為堆積と考えられる。本遺構からは遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SP－02（第10図）

Ｇ－６グリッドに位置している。平面形は楕円形を呈している。断面形は段を持って立ち上がる。規模は長軸24×短軸14×深さ12cmを測る。堆積土は２層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒と炭化粒が混入している。自然堆積と考えられる。本遺構からは遺物が出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SP－03（第10図）

Ｇ－５グリッドに位置している。平面形は円形を呈している。断面形は鍋底状を呈している。規模は長軸26×短軸22×深さ９cmを測る。堆積土は２層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒・ロームブロックが混入している。人為堆積と考えられる。本遺構からは遺物が出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SP－04（第10図）

Ｈ－５グリッドに位置している。平面形は不整形を呈している。断面形は段を持って立ち上がる。規模は長軸20×短軸16×深さ13cmを測る。堆積土は２層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒・炭化粒が混入している。自然堆積と考えられる。本遺構からは遺物が出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SP－05（第10図）

Ｇ・Ｈ－６グリッドに位置している。平面形は円形を呈している。断面形は鍋底状を呈している。規模は長軸28×短軸24×深さ５cmを測る。堆積土は３層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒・炭化粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構からは遺物が出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SP－06（第10図）

Ｈ－７グリッドに位置している。平面形は不整形を呈している。断面形は段を持って立ち上がる状況を呈している。規模は長軸34×短軸31×深さ５㎝を測る。堆積土は３層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、ローム粒・炭化粒が混入している。自然堆積と考えられる。本遺構からは遺物が出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SP－07（第10図）

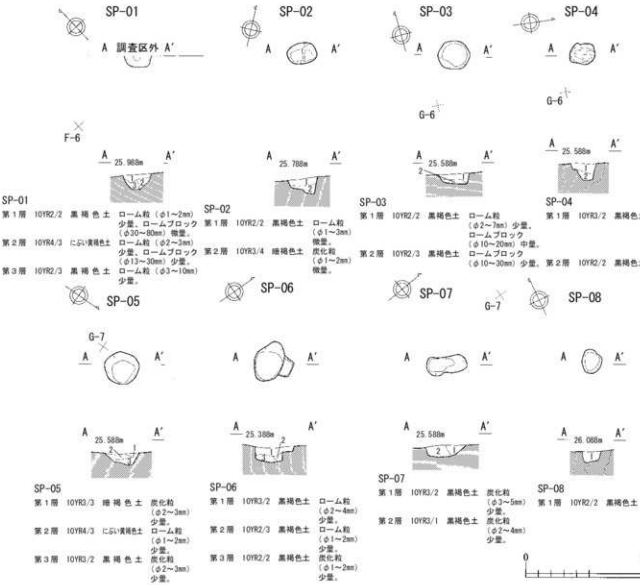
Ｇ・Ｈ－７グリッドに位置している。平面形は不整形を呈している。断面形は鍋底状を呈している。規模は長軸32×短軸14×深さ４㎝を測る。堆積土は２層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積し、炭化粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構からは遺物が出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SP－08（第10図）

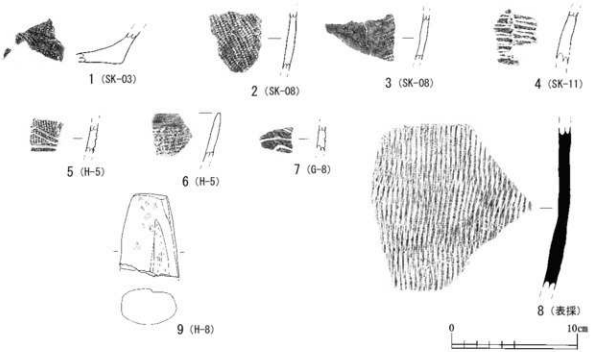
Ｋ－１グリッドに位置している。平面形は円形を呈している。断面形は円筒形を呈している。規模は長軸19×短軸16×深さ８㎝を測る。堆積土は１層で黒褐色土が堆積し、ローム粒・炭化粒が混入している。人為堆積と考えられる。本遺構からは遺物が出土しなかったため、帰属時期は不明である。

第３節　遺構外出土遺物

縄文土器３点（第11図５～７）、須恵器１点（第11図８）、石器１点（第11図９）の計５点が出土した。５～７は縄文時代中期後半～後期初頭の土器と考えられる。５は縄文時代中期後半と考えられる胴部破片で、ＬＲの地文に沈線で文様が施されている。６は縄文時代中期後半と考えられる口縁部破片で、ＬＲが施され、内面にはミガキが施されている。７は縄文時代後期初頭と考えられる胴部破片で、沈線が施されている。８は須恵器甕の胴部破片で、外面にはタタキ目、内面には当て具痕が認められる。９は磨製石斧の刃部が欠損した資料で、表面には擦切痕が認められ、上端部にはタタキが認められる。


SP-01
A 調査区外 A′
SP-02
A A′
SP-03
A A′
G-6
SP-04
A A′
G-6
F-6
A 25.968m A′
SP-01
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒（φ1～2mm）少量。ローム ブロック（φ30～90mm）微量。
第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒（φ2～3mm）少量。ローム ブロック（φ11～30mm）少量。
第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒（φ3～10mm）少量。
A 25.788m A′
SP-02
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒（φ1～3mm）微量。
第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化粒（φ1～2mm）微量。
A 25.588m A′
SP-03
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒（φ2～7mm）少量。ローム ブロック（φ10～20mm）中量。
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム ブロック（φ10～30mm）少量。
A 25.588m A′
SP-04
第1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒（φ1～3mm）少量。炭化粒（φ2～3mm）少量。
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒（φ2～3mm）少量。
SP-05
SP-06
SP-07
G-7
SP-08
G-7
A A′
A 25.588m A′
SP-05
第1層 10YR2/3 暗褐色土 炭化粒（φ2～3mm）少量。
第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒（φ1～2mm）少量。
第3層 10YR3/2 黒褐色土 炭化粒（φ2～3mm）少量。
A 25.388m A′
SP-06
第1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒（φ2～4mm）少量。
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒（φ1～2mm）少量。
第3層 10YR2/2 黒褐色土 炭化粒（φ1～2mm）少量。
A 25.588m A′
SP-07
第1層 10YR3/2 黒褐色土 炭化粒（φ2～5mm）少量。
第2層 10YR3/1 黒褐色土 炭化粒（φ2～4mm）少量。
A 26.088m A′
SP-08
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒（φ2～3mm）少量。炭化粒（φ1～2mm）微量。
0
2m

第10図　ピット



第11図　出土遺物

第１表　出土土器観察表

図版番号	出土位置	層位	種別	器種	部位	文様・調整			備考
						外面	内面	底面	
11-1	SK-03	1層	縄文土器	深鉢	底部	LR	ナデ	―	内面に炭化物付着
11-2	SK-08	2層	縄文土器	深鉢	胴部	LR	ナデ	―	
11-3	SK-08	2層	縄文土器	深鉢	胴部	LR	ナデ	―	
11-4	SK-11	4層	縄文土器	深鉢	口縁部	R単軸絡条体第6A類	ナデ	―	胎土に繊維混入
11-5	H-5	確認面	縄文土器	深鉢	胴部	LR、沈線	ナデ	―	
11-6	H-5	確認面	縄文土器	深鉢	口縁部	LR	ミガキ	―	
11-7	G-8	Ⅴ層	縄文土器	深鉢	胴部	沈線	ナデ	―	
11-8	表採	―	須恵器	甕	胴部	タタキ目	当て具痕	―	

第２表　出土石器観察表

図版番号	出土位置	層位	種別	計測値（mm、g）				石質	備考
				長軸	短軸	厚さ			
11-9	H-8	Ⅱ層	磨製石斧	66	48	29	154.2	輝緑凝灰岩	擦り切り痕、タタキ

ま と め

第１節　概要

大矢沢野田遺跡は青森市大字大矢沢字野田及び四ッ石字里見に位置している。遺跡は地形的に北から平野部、丘陵縁辺部、丘陵部に分けられる。市道筒井幸畑団地線道路改良工事に係り、青森市都市整備部道路建設課の委託を受け、平成11～13年度、平成20年度、平成23年度に計画地の発掘調査を実施した。

第２節　検出遺構

本遺跡からは、平成11～13年度、平成20年度、平成23年度の発掘調査で、縄文時代前期初頭から縄文時代中期後葉、平安時代の遺構・遺物を検出した。第３～９表はこれまで検出した遺構の数量を時期毎にまとめたものである。平成11～13年度は縄文時代前期初頭～前期末葉を主体とし、平成20年度は縄文時代前期末葉～中期初頭を主体とする。

第３表　検出遺構数（縄文時代前期初頭）

報告年度／検出遺構	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成20年度	平成23年度
竪穴住居跡		1棟			
土坑		3基			
焼土遺構		1基			
ピット		47基			

第４表　検出遺構数（縄文時代前期中葉）

報告年度／検出遺構	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成20年度	平成23年度
土坑					1基
遺物集中ブロック	1箇所				

第５表　検出遺構数（縄文時代前期末葉～中期初頭）

報告年度／検出遺構	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成20年度	平成23年度
土坑					1基
溝状土坑				4基	

第６表　検出遺構数（縄文時代中期後葉～後期初頭）

報告年度／検出遺構	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成20年度	平成23年度
土坑	1基				1基
溝状土坑	1基				

第７表　検出遺構数（平安時代）

報告年度／検出遺構	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成20年度	平成23年度
土坑				1基	

第８表　検出遺構（平安時代以降）

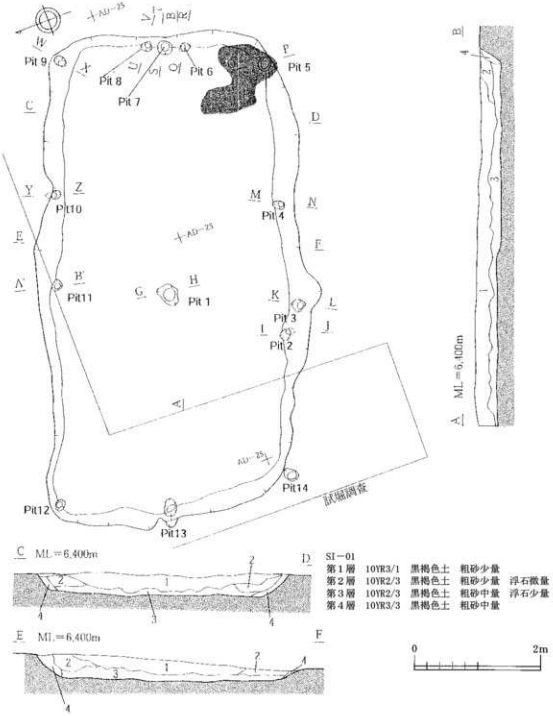
報告年度／検出遺構	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成20年度	平成23年度
土坑				10基	
溝跡				1条	

第９表　検出遺構（時期不明）

報告年度／検出遺構	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成20年度	平成23年度
土坑					8基
ピット					8基

1．竪穴住居跡

竪穴住居跡は平成12年度の調査区より１棟検出した（SI－01）。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸832×短軸486×深さ40cmを測る。柱穴は床面中央部の主柱穴のほか、住居の隅や壁の中間付近に壁柱穴が認められる。炉は確認できなかったが、南東隅より炭化物範囲を確認した。本遺構からは、羽状縄文や斜縄文が施された早稲田６類ｃ土器（第Ⅱ群ｃ３類土器）が出土したほか、磨石や敲石、台石が出土した。



第12図　竪穴住居跡

２．土坑

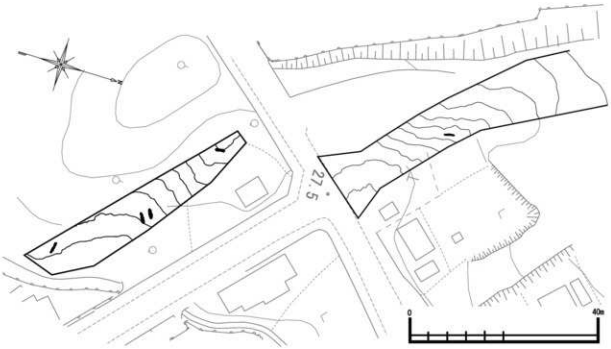
土坑は26基検出した。時期不明のものもあるが、縄文時代前期初頭～平安時代までのものである。調査区別にみると、平成11～13年度の調査区で４基、平成20年度の調査区で11基、平成23年度の調査区で11基検出した。平面形は円形を呈するものが多く、楕円形、不整形のものがある。断面形は袋状、鍋底状、円筒状、段を持つものがあり、鍋底状のものが多い。本遺跡から検出した土坑は、概ね縄文時代の土坑であるが、平成23年度調査区から平安時代の焼成土坑を1基検出した。底面から被熱の痕跡が認められ、堆積土には炭化物が混入する。遺物は出土していないが、下層からTo－A火山灰を確認したため、平安時代と認定した。

３．溝状土坑

溝状土坑は、平成11年度調査区で１基（SK－04）、平成20年度調査区（SK－01～04）で４基検出した。これら５基は近接した区域からの検出である。配置状況については、概ね斜面に直行しており、南側の斜面上位から20年度調査区SK－01、SK－04、SK－03、SK－01、11年度SK－04となる。形態的にみると、平面形は平成11年度調査区SK－04と平成20年度SK－01は、短軸が細身の形状を呈しており、平成20年度調査区SK－02～04は短軸が太目の形状を呈している。長軸方向の断面形状から見ると、平成11年度調査区SK－04、平成23年度調査区SK－02はややオーバーハングしており、20年度調査区SK－01・04はやや外傾しながら立ち上がり、SK－03は垂直に立ち上がる。これらの帰属時期については、出土土器から、平成11年度SK－04は縄文時代中期後葉～後期初頭、平成20年度SK－01～04は縄文時代前期中葉～中期初頭に帰属すると考えられる。

４．溝跡

平成20年度調査区から１条検出した。規模は長軸13.5×短軸0.95×深さ0.25cmを測る。下位に砂質の層が



第13図　溝状土坑

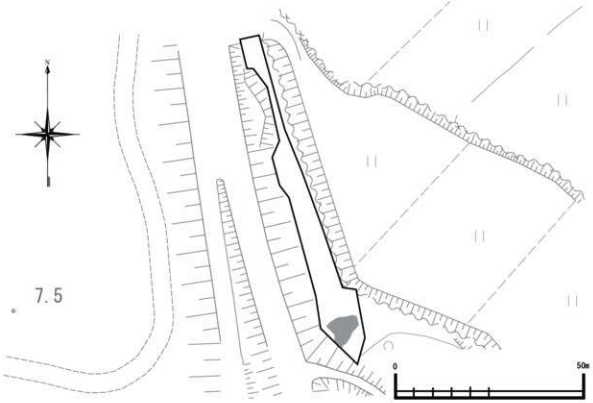
確認されたことから、水路と考えられる。20年度調査区の東側には、惣四郎堰と呼ばれる農業用水路があり、これに沿うように位置していることから、惣四郎堰以前に使われた水路であった可能性が高い。遺物が出土していないため、時期不明であるが、本遺構は遺跡に隣接するりんご畑に切られており、近現代と考えられる。

5．遺物集中ブロック

平成11年度調査区より検出した。本遺構は、遺跡東側に隣接する沢地形上に位置している。周辺は丘陵部から丘陵縁辺部へと移行する地点にあたり、緩やかに傾斜していることから、その斜面を利用したと考えられる。遺物は長軸902×短軸862cmの範囲から多量に出土した。６層に分層した堆積土のうち、黒色土を呈する第３・４層から、円筒下層ａ式土器、円筒上層ｂ式土器（第Ⅲ群土器）のほか、石鏃、石槍、石錐、石匙、石篦、不定形石器、敲磨器類などが段ボール換算で47箱分出土した。土器の多くは、横転したまま土圧によって押しつぶされたような出土状態を呈している。

6．ピット

平成12年度調査区から47基、平成23年度調査区から８基検出した。柱穴状を呈するものも極少数認められるが、建物跡としての明確な配置は確認できなかった。帰属時期についてはすべて不明である。



第14図　遺物集中ブロック

7．焼土遺構

平成12年度調査区から１基検出した。平面形は円形を呈し、規模は、長軸84×短軸80cmを測る。遺物は出土しなかったため、時期は不明である。

第３節　出土土器

本遺跡から出土した土器については、下記の６類に分類した。縄文時代前期初頭の第Ⅱ群土器、縄文時代前期中葉の第Ⅲ群土器を主体とする。

第Ⅰ群　縄文時代早期の土器
第Ⅱ群　縄文時代前期初頭の土器
第Ⅲ群　縄文時代前期中葉の土器
第Ⅳ群　縄文時代前期末葉の土器
第Ⅴ群　縄文時代中期初頭の土器
第Ⅵ群　縄文時代中期後葉～後期初頭の土器

第Ⅰ群　縄文時代早期の土器（第15図）

平成12年度調査区から３点出土した。全て胴部破片と考えられ、貝殻腹縁による条痕文が横位に施されている。３の内面には炭化物が付着するものが認められる。縄文時代早期中葉のムシリⅠ式土器と考えられる。

第15図　第Ⅰ群土器

第Ⅱ群　縄文時代前期初頭の土器（第16～19図）

第Ⅱ群土器は平成12年度、平成13年度調査区より、段ボール箱換算で５箱出土した。文様によって、ａ～ｃ類に分類した。原体の太いものは表館式土器、原体の細いものは早稲田６類土器と考えられる。

ａ．刺突文・コンパス文が施される土器

器形は、深鉢形を呈し、平底で、平口縁を呈するものが多い。口唇部については、口唇部内側を面取りしたものが認められる。本類については、文様により、a1．刺突文・コンパス文が重層的に施されるもの、a2．刺突列による三角繋ぎの区画内にコンパス文が充填されるもの、a3．口縁上部及び胴部下半に両者が１

単位づつ限定的に施されるもの、a4. 口縁上部に刺突列、胴部にコンパス文が施されるもの、a5. 縄文のみ施されるものに分類した。これらの時期関係については、概ねa2→a3→a4→a1と考えられる。

b．押し引き沈線文が施される土器

器形は、深鉢形を呈し、尖底で、平口縁を呈するものが多い。口唇部は、a類と比べて平坦に成形されている。本類については、文様により、b1. 地文を有し、数条の押し引き沈線文が口縁部ないし底部に施されるもの、b2. 器面全面に押し引き沈線文が施されるもの、b3. 縄文のみ施されるものに分類した。本遺跡の類型と早稲田6類土器を設定した佐藤　達夫氏の分類を対応させると、b1は6類b、b2は6類a、b3は6類cとなる。早稲田6類土器の変遷については、長七谷地貝塚発掘調査報告書や発茶沢遺跡発掘調査報告書による長七谷地Ⅲ群→早稲田6類c土器→早稲田6類a土器・b土器という説（青森県教育委員会1980、青森県教育委員会　1982）のほか、楯館遺跡発掘調査報告書においては、早稲田6類c土器を独立した型式とし、長七谷地Ⅲ群に後続する土器とする説がある（青森県教育委員会 2003)。

c．縄文のみ施文されるもの

ループ文、縄端回転文、斜縄文、羽状縄文が施されている。太目の原体は表館式土器、細目の原体は早稲田6類土器と考えられる。

第Ⅲ群　縄文時代前期中葉の土器（第20～22図）

第Ⅲ群土器は平成11年度の調査において、遺物集中ブロック第3・4層から段ボール箱換算で40箱出土した。文様によって、a～h類に分類した。いずれも胎土に繊維を混入している。これらは、円筒下層a式土器、円筒下層b式土器と考えられる。

a．縄文が回転施文されるもの

器形は、ほぼ垂直に立ち上がるものが多い。口縁部形状は平縁が多く、波状を呈するものが少ない。文様は複節斜縄文が施されるものが多数認められる。隆帯をもつものはわずかに認められるが、地文を施文した後に貼り付けられている。底部には、胴部と同様の文様が施されている。

b．縄の側面圧痕が施されるもの

器形は直線的に立ち上がるものが多い。口縁部形状は平縁を呈するものが多い。口唇部は丸みを帯びたものや、平坦に整えられたものがあり、丸みを帯びたものが多い。文様は、地文を施した後、口縁部に縄の側面圧痕を2～3条施している。

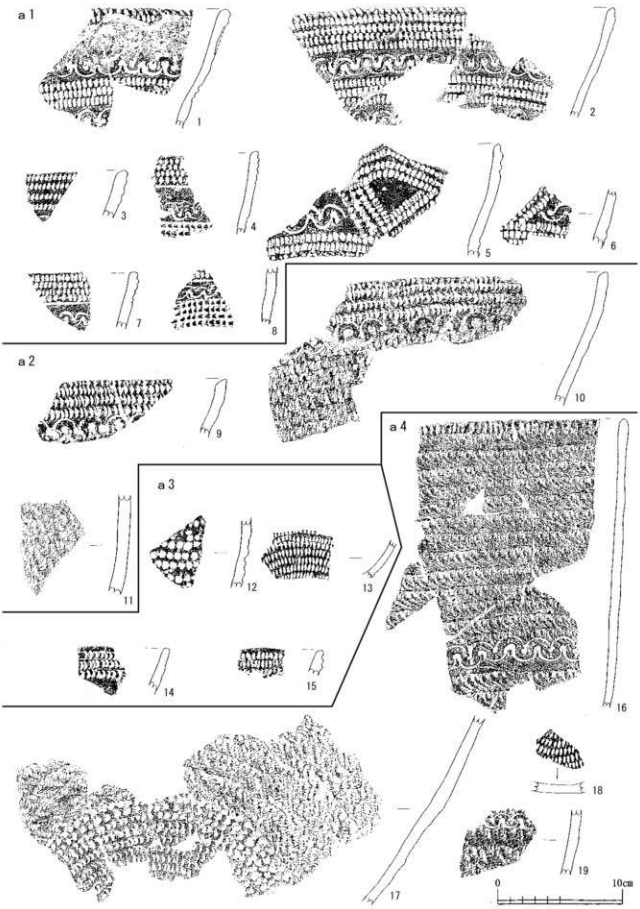
c．結節回転文が施されるもの

1．隆帯をもたないもの

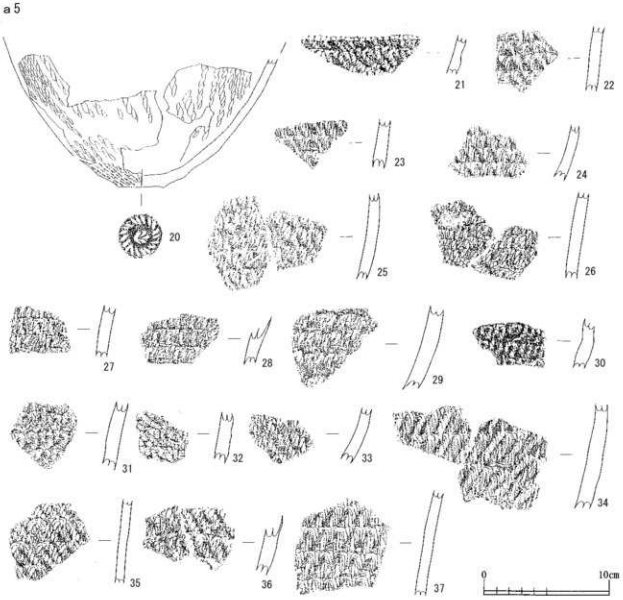
器形はほぼ垂直に立ち上がるものや、やや角度をもって直線的に立ち上がるものが多い。口縁部形状はa・b類と異なり、波状を呈するものが多く、平縁が少ない状況を呈している。文様は地文を施した後、口縁部に結節回転文が施されている。地文については、外面全面に施されるものと、口縁部が無文のものがあり、前者が多い。地文は、複節が多いが、無節、単節、直前段反撚、単軸絡条体第1類のようにバリエーションがある。

2．隆帯をもつもの

器形は、口縁部が外反するものが多い。口縁部形状は波状を呈するものが多く、平縁を呈するものは少ない。口唇部は丸みを帯びるものが多い。文様は、隆帯によって区画された口縁部文様帯に結節回転文が施されており、地文は複節縄文である。地文は口縁部文様帯にも認められ、地文施文後に隆帯を貼りつけたと考

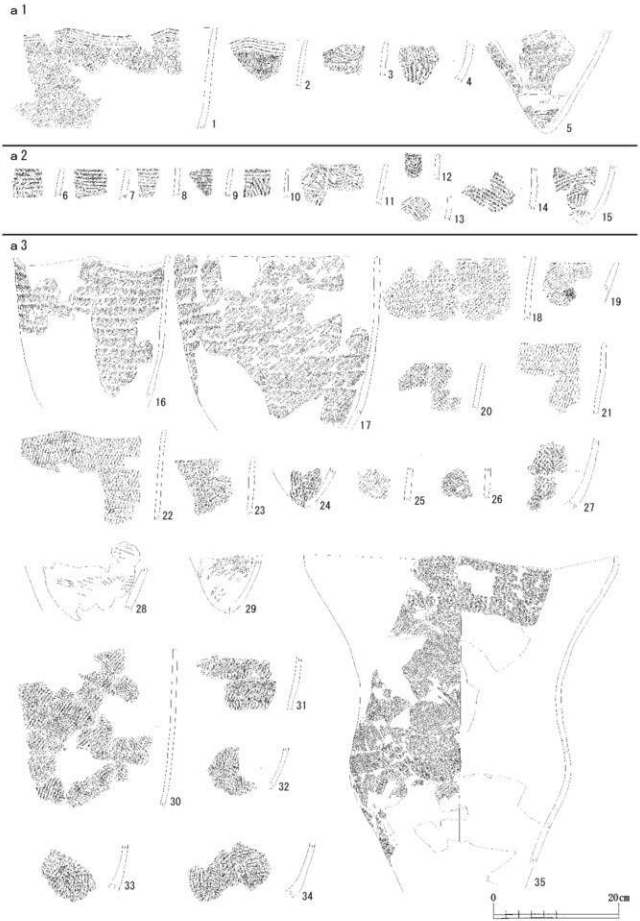


第16図　第Ⅱ群a類土器①



第17図　第Ⅱ群a類土器②

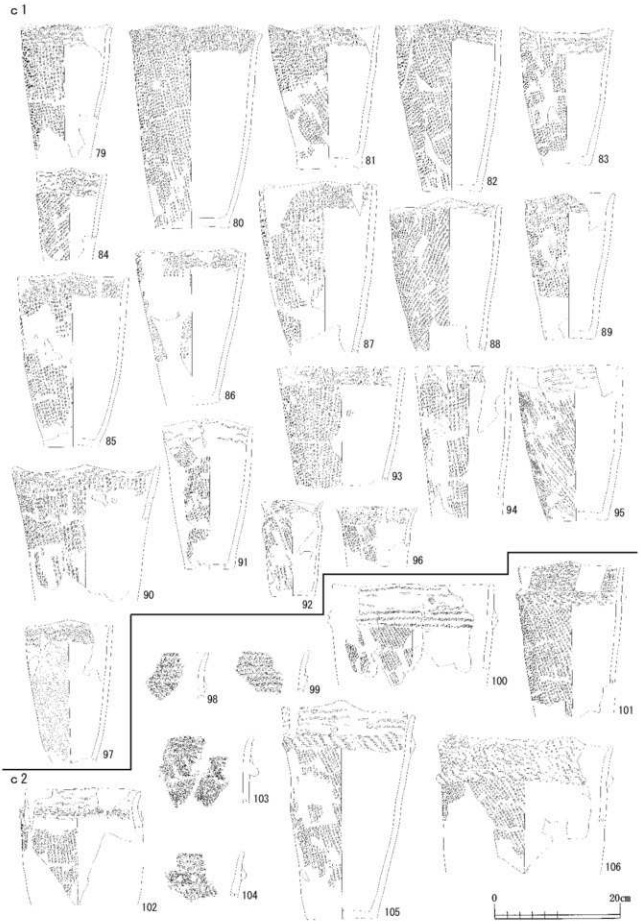
第18図　第Ⅱ群a類土器変遷図



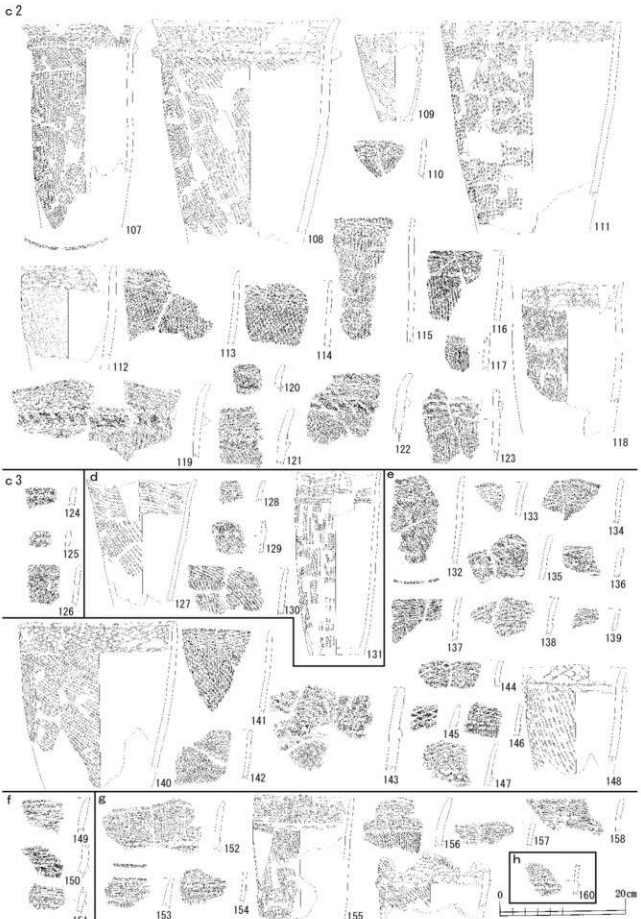
第19図　第Ⅱ群ｂ類土器

a
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
b
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
c 1
75
76
77
78
0
20cm

第20図　第Ⅲ群土器①


c 1
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
c 2
102
103
104
105
106
0
20cm

第21図　第Ⅲ群土器②


c2
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
c3
124
125
126
d
127
128
129
130
131
e
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
f
149
150
151
g
152
153
154
155
156
157
158
159
h
160
0
20cm

第22図　第Ⅲ群土器③

えられる。隆帯に認められる文様は、側面圧痕、指頭圧痕、竹管状工具である。

3．竹管状工具による疑似結節回転文が施されるもの

口縁部破片のため、器形は不明であるが、口縁部形状は波状を呈し、口唇部は丸みを帯びている。文様は、竹管状工具により弧状の刺突が連続して施されている。

d．単軸絡条体第1類が回転施文されるもの

全体形状が分かる資料は少ないが、器形は、直線的に立ち上がるものが多い。口縁部形状は平縁が多く、口唇部は丸みを帯びるものが多い。文様については、単軸絡条体第1類が口縁部文様帯に限定されるもの、全面に施されるもの、胴部に施されるものがある。

e．単軸絡条体第5類が回転施文されるもの

器形は直線的に立ち上がるものが多い。口縁部形状は、平縁が多い。口唇部については、先細りのものは少なく、平坦なものが認められる。文様については、単軸絡条体第5類が口縁部文様帯に限定され、胴部に複節縄文や単軸絡条体第1類が認められる。

f．単軸絡条体第6類が回転施文されるもの

全体形状が分かる資料は少ないが、器形は、口縁部付近から外反するものが多い。口唇部については、丸みを帯びるものが認められる。文様は、単軸絡条体第6類が口縁部文様体に施されている。隆帯や口唇部付近には側面圧痕が施されている。

g．単軸絡条体第6A類が回転施文されるもの

器形は、口縁部から胴部まで直線的なものが多い。口縁部形状は波状を呈するものが多く、口唇部は平坦なものや丸みを帯びるものが多い。文様は、e～g類と同様に単軸絡条体第6A類が、口縁部文様体に限定されており、特に側面圧痕で区画された部分に施されている。胴部文様は単節縄文、複節縄文や単軸絡条体第1類がある。

h．多軸絡条体が回転施文されるもの

器形は、直線的に立ち上がっている。文様は多軸絡条体が口縁部文様帯に施されており、隆帯には側面圧痕が施されている。

第Ⅳ群　縄文時代前期末葉の土器（第23図）

平成20年度調査区から6点出土した。胴部破片が主体であり、1点のみ口縁部の破片である。文様は、斜縄文、結束第1種羽状縄文、単軸絡条体第1類、単軸絡条体第1A類が施されている。

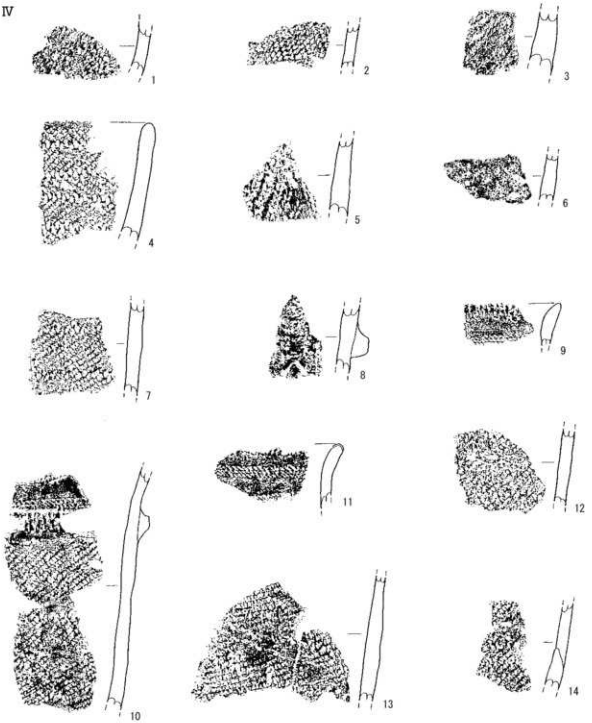
第Ⅴ群　縄文時代中期初頭の土器（第23図）

平成11年度調査区から1点、平成20年度調査区から9点出土した。胴部破片が主体であり、口縁部付近の破片は3点である。口縁部付近の破片については、原体の側面圧痕によって文様が施されており、胴部の破片は、斜縄文、結束第1種羽状縄文が施されている。

第Ⅵ層　縄文時代中期後葉～後期初頭の土器（第24図）

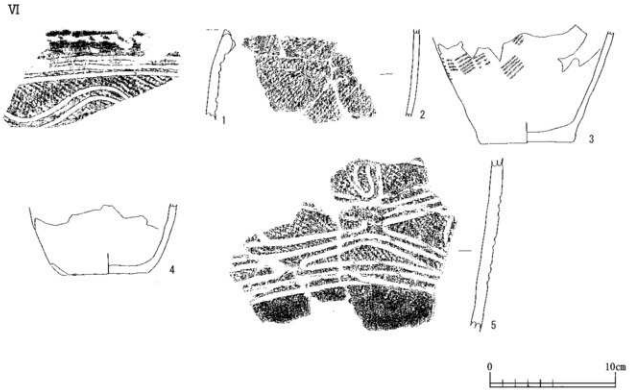
平成11年度調査区から4点、平成12年度調査区から1点出土した。口縁部破片は地文に波状沈線によって文様を施しており、榎林式と考えられる。胴部の破片は、単節や無節の斜縄文が施されるものがあり、詳細な時期は不明であるが、縄文時代中期後葉と考えられる。地文に沈線によって連携三角文や連携渦巻文が施

Ⅳ



Ⅴ

第23図　第Ⅳ・Ⅴ群土器



第24図　第VI群土器

されているものは、縄文時代後期初頭と考えられる。

第４節　出土石器（第25・26図）

本遺跡から出土した石器については、以下のとおり分類した。特に平成11年度調査区の遺物集中ブロックから多く出土している。

A　石鏃
B　石槍
C　石錐
D　石匙
E　石篦
F　不定形石器
G　磨製石斧
H　半円形扁平打製石器
I　敲磨器類
J　石皿・台石

A．石鏃

平成11年度調査区より11点、平成12年度調査区より２点出土した。円基鏃、平基鏃、尖基鏃が出土してお

り、平基鏃が多い。石質はすべて珪質頁岩である。

B．石槍

平成11年度調査区より１点、平成12・13年度調査区より２点出土した。一般的な石槍のほか、長い基部に凸部を持つ特殊なものも出土している。

C．石錐

平成11年度調査区より７点、平成12年度調査区より１点出土した。形状から、つまみ状に作出されるもの、棒状を呈するもの、剥片の側縁を調整したものが認められる。

D．石匙

平成11年度調査区より79点、平成12・13年度調査区より４点出土した。本遺跡で、最も出土量の多い石器である。縦型のものと横型のものがあり、縦形が圧倒的に多い。縦型のものは、形状から、両側縁が直線的なもの、側縁が湾曲するもの、側縁に凹凸があるもの、下端が鋭く尖るもの、下端に向かって細くなるもの、丸みを帯びるもの、下端に向かって幅広になるものなどが認められる。

E．石篦

平成11年度調査区より７点、平成12・13年度調査区より10点出土した。形状や調整から、片面のみ刃部調整されているもの、両面が刃部調整されているものが認められる。

F．不定形石器

平成11年度調査区より43点、平成12・13年度調査区より12点出土した。刃部の形状から、直線的な刃部をもつもの、曲線的な刃部をもつもの、凹凸の刃部をもつものが認められる。

G．磨製石斧

平成11年度調査区から２点、平成12年度調査区から１点出土した。いずれも、刃部が欠損している。

基部に微細な剥離をもつものがあることから、刃部欠損後も使用された可能性が考えられる。

H．半円状扁平打製石器

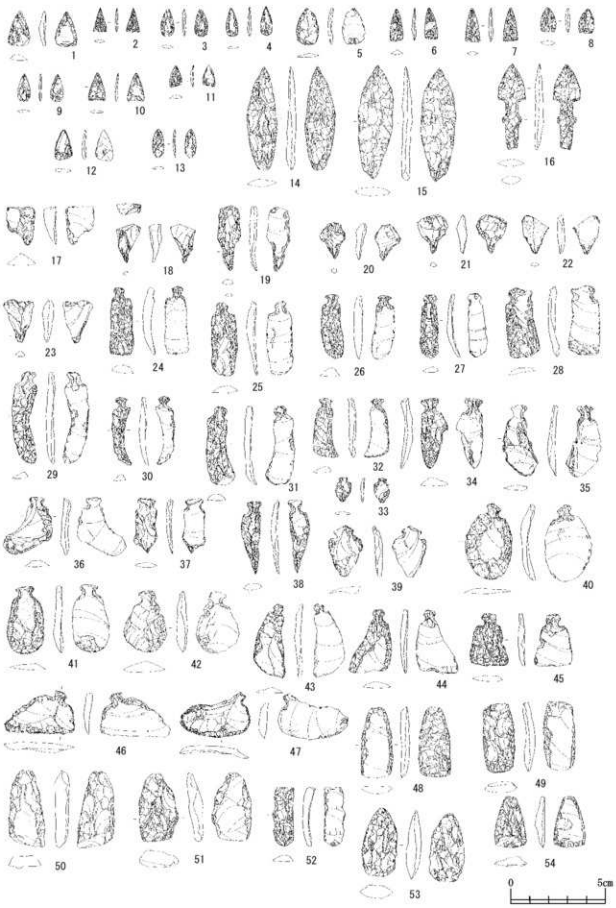
平成11年度調査区から３点出土した。全体に磨りによって整形され、側縁に剥離、下端に磨りが認められる。表面には敲きが認められるものがある。

I．敲磨器類

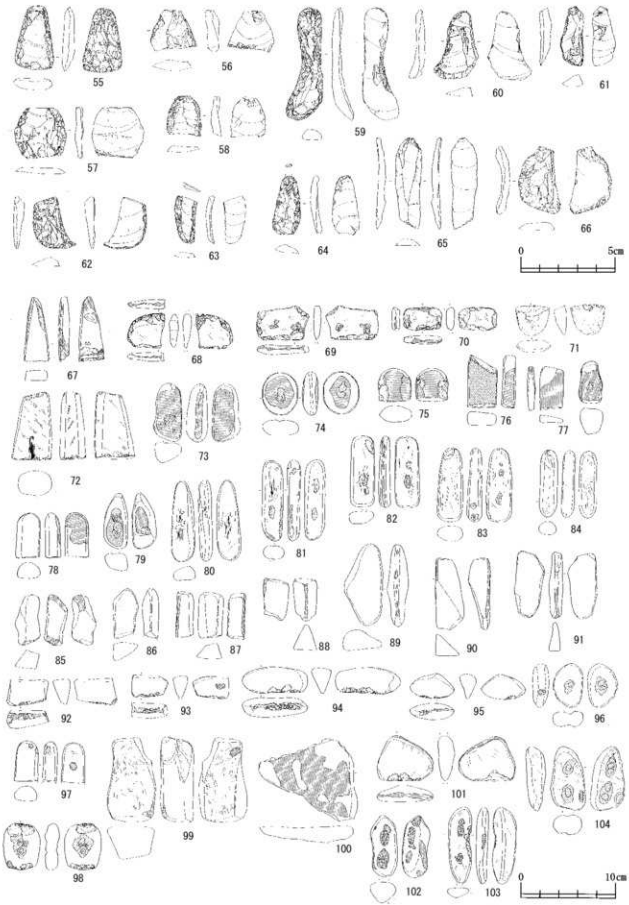
平成11年度調査区から５点、平成12年度調査区から24点出土した。磨り石、凹み石、敲き石が認められる。磨り石は、面的に磨り痕が認められるもの、側縁に磨りが認められるものに分けられる。

J．石皿・台石

平成12年度調査区から２点出土した。台石は表面と裏面に擦痕が認められ、一部敲きが認められる。石皿は破片で、表面に磨りが認められる。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
0
5cm

第25図　石器①


55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
0
5cm
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
0
10cm

第26図　石器②

第５節　土製品・石製品（第27図）

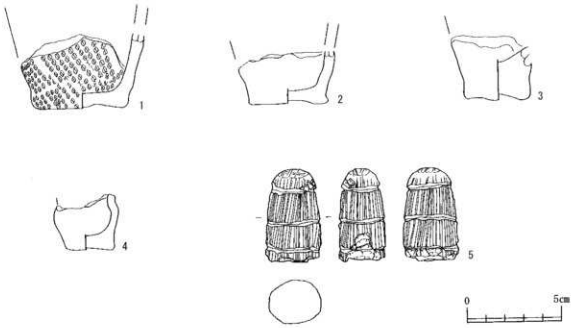
遺物集中ブロックからミニチュア土器が４点、石製品が１点出土した。

・ミニチュア土器

複節縄文が施されたもの以外は無文である。胴部は直線的に立ち上がるものが多い。

・石製品

棒状を呈するものが１点出土した。欠損しており、文様は縦位の磨りが施され、その上に横位の沈線が３条施されている。



第27図　土製品・石製品

引用・参考文献

青森県教育委員会　1977　青森県埋蔵文化財調査報告書　第57集　『長七谷地貝塚遺跡発掘調査報告書』

青森県教育委員会　1982　青森県埋蔵文化財調査報告書　第67集　『発茶沢遺跡発掘調査報告書』

青森県教育委員会　1985　青森県埋蔵文化財調査報告書　第90集　『大石平遺跡調査報告書』

青森県教育委員会　1985　青森県埋蔵文化財調査報告書　第91集　『表館遺跡Ⅱ』

青森県教育委員会　1999　『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書』　青森県埋蔵文化財調査報告書第279集

青森県教育委員会　2000　『青森市横内川遊水地埋没林調査報告書』

青森県教育委員会　2001　『生態系のタイムカプセル』　青森県埋没林調査報告書

青森県教育委員会　2003　青森県埋蔵文化財調査報告書　第342集　『楢館遺跡　－八戸南環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－』

青森市教育委員会　2000　青森市埋蔵文化財調査報告書　第52集　『大矢沢野田（1）遺跡調査報告書』

青森市教育委員会　2001　青森市埋蔵文化財調査報告書　第58集　『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査概報Ⅱ』

青森市教育委員会　2002　青森市埋蔵文化財調査報告書　第61集　『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書』

青森市教育委員会　2006　青森市埋蔵文化財調査報告書　第85集　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』

青森市教育委員会　2009　青森市埋蔵文化財調査報告書　第100集　『阿部野（1）遺跡発掘調査報告書』

青森市教育委員会　2009　青森市埋蔵文化財調査報告書　第101集　『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』

青森市教育委員会　2010　青森市埋蔵文化財調査報告書　第105集　『葛野（3）遺跡発掘調査報告書』

青森市教育委員会　2011　青森市埋蔵文化財調査報告書　第108集　『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅳ』

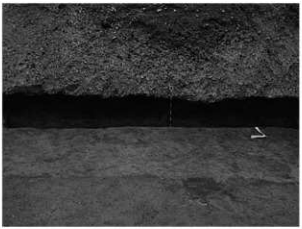
武藤康弘　1988　「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究－表館式、早稲田第６類土器をめぐって－」『考古学雑誌74－2』

写 真 図 版

調査区完掘①（N→）

調査区完掘②（S→）

作業風景（E→）



基本層序（E→）

1T（W→）

2T（S→）

写真２　検出遺構①

3T（N→）

4T（N→）

5T（N→）

6T（S→）

7T（N→）

8T（S→）

写真３　検出遺構②

9T（W→）

10T（E→）

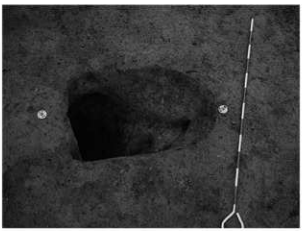
11T（E→）

12T（E→）

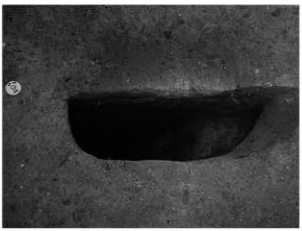
13T（E→）

表土剥ぎ風景（S→）

写真４　検出遺構③



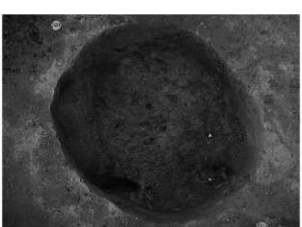
SK－01完掘（S→）



SK－01セクション（S→）

SK－02セクション（S→）

SK－03完掘（E→）

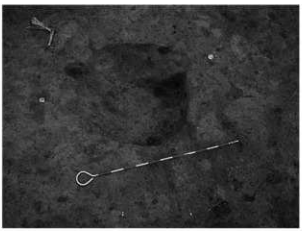


SK－04完掘（W→）

SK－05完掘（S→）

写真５　検出遺構④

SK－06完掘（S→）



SK－06セクション（S→）

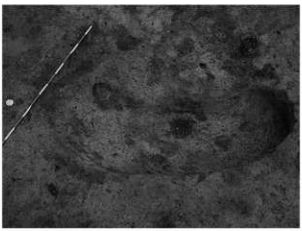
SK－07完掘（S→）

SK－08完掘（W→）

SK－09完掘（W→）

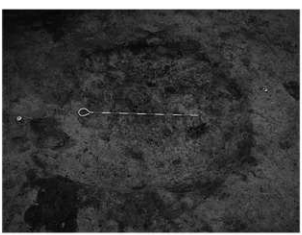
SK－09セクション（W→）

写真６　検出遺構⑤

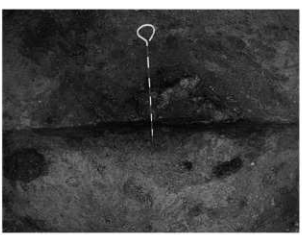


SK－10完掘（N→）

SK－10セクション（N→）

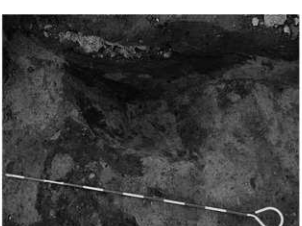


SK－11完掘（E→）



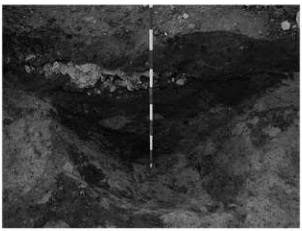
SK－11セクション（E→）

SK－11焼土・炭化物出土状況（E→）

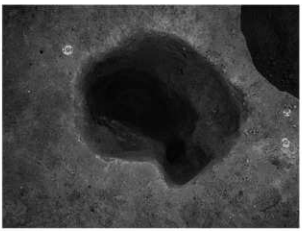


SP－01完掘（W→）

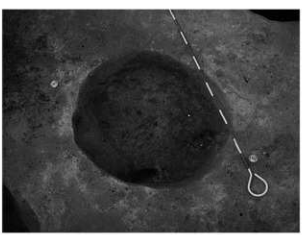
写真７　検出遺構⑥



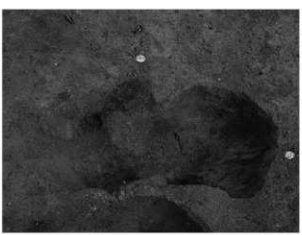
SP－01セクション（W→）



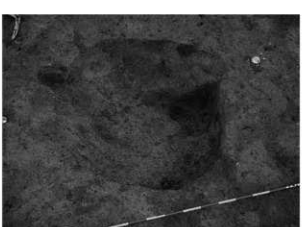
SP－02完掘（S→）



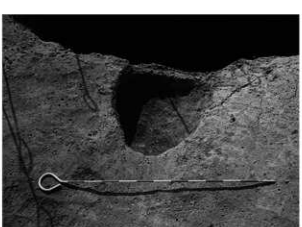
SP－03完掘（S→）



SP－04完掘（E→）



SP－05完掘（E→）



SP－08完掘（S→）

写真８　検出遺構⑦

遺物出土状況①

遺物出土状況②

写真９　検出遺構⑧

写真10　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おおやさわのだいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅲ
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第115集
編著者名	設楽　政健
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-8505　青森県青森市柳川二丁目１番１号　TEL017－761－4796
発行年月日	西暦2013年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		世界測地系（JGD2000）		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
大矢沢野田遺跡（おおやさわのだいせき）	青森市（あおもりし）大字（おおあざ）大矢沢字（おやさわあざ）野田（のだ）	02201	201－292	40°47′09″	140°53′15″	19990614～19990930	1,000㎡	市道筒井幸畑団地線道路改良工事
						20000817～20001031	2,100㎡	
						20010711～20010809	600㎡	
						20080603～20080811	1,003㎡	
						20110714～20110930	813㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大矢沢野田遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡１棟 土坑30基 焼土遺構１基 ピット55基 遺物集中ブロック１箇所 溝跡１条	縄文土器 石器 須恵器	

要約

１．本遺跡は青森市大字大矢沢野田遺跡に位置している。
２．本遺跡は青森市南部の丘陵地の先端部、標高20～25ｍの地点に位置している。
３．市道筒井幸畑団地線道路改良事業に先立ち、平成11～13、20、23年度に当委員会が発掘調査を実施し、縄文時代前期初頭の竪穴住居跡・土坑・溝状土坑、ピット・河川跡のほか、縄文時代早期～後期の土器・石器・土製品が出土している。
４．平成11～13、20年度の調査成果は既に報告済みであるが、今回報告する平成23年度の調査では、土坑11基、ピット8基を検出した。遺物はごく少なく、縄文時代前期～後期の縄文土器7点、磨製石斧1点、表採の須恵器甕の破片のみであり、検出した遺構の種類や遺構密度から、今回の調査区は集落縁辺部にあたると考えられる。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1	1962	『三内葦渠遺跡調査概報』	
〃 2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』	
〃 3	1967	『玉清水遺跡調査概報』	
〃 4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』	
〃 5	1971	『野木和遺跡調査報告書』	
〃 6	1971	『玉清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書』	
〃 7	1971	『六郎遺跡調査報告書』	
〃 8	1973	『鎧内遺跡発掘調査報告書』	
	1979	『蛍沢遺跡』	
	1983	『四戸橋遺跡調査報告書』	
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	
	1985	『浜森遺跡発掘調査報告書』	
	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	
	1987	『横内坂跡発掘調査報告書』	
	1988	『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』	
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『松塚(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『松塚(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第32集	1997	『松塚(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第34集	1997	『鶴野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第36集	1998	『松塚(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第44集	1999	『鶴野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	第47集	1999	『福山遺跡発掘調査概報』
〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
〃	第49集	2000	『福山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第51集	2000	『松塚(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃	第56集	2001	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	第57集	2001	『福山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第58集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃	第61集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第62集	2002	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第63集	2002	『福山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第65集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃	第66集	2003	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第67集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃	第71集	2004	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第72集	2004	『福山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第73集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第74集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃	第75集	2004	『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃	第76集	2005	『宋山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第77集	2005	『小坂遺跡発掘調査報告書』
〃	第78集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃	第79集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃	第80集	2005	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第81集	2005	『石江遺跡群発掘調査概報』
〃	第82集	2006	『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第83集	2006	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第84集	2006	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第85集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
〃	第87集	2006	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第88集	2006	『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書Ⅱ』
〃	第89集	2006	『篠原遺跡発掘調査報告書』
〃	第90集	2007	『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第91集	2007	『市内遺跡発掘調査報告書15』
〃	第92集	2007	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第93集	2007	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第94集	2007	『石江遺跡群発掘調査報告書』
〃	第95集	2008	『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』
〃	第97集	2008	『市内遺跡発掘調査報告書16』
〃	第98集	2008	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第99集	2009	『市内遺跡発掘調査報告書17』
〃	第100集	2009	『阿部野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第101集	2009	『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第103集	2010	『市内遺跡発掘調査報告書18』
〃	第104集	2010	『長部池遺跡発掘調査報告書』
〃	第105集	2010	『恐野(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第106集	2010	『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第107集	2011	『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第108集	2011	『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第109集	2011	『市内遺跡発掘調査報告書19』
〃	第110集	2012	『市内遺跡発掘調査報告書20』
〃	第112集	2012	『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第113集	2012	『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅵ』
〃	第114集	2013	『市内遺跡発掘調査報告書21』
〃	第115集	2013	『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅲ』

青森市埋蔵文化財調査報告書　第115集

大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅲ

発行年月日　平成25年３月31日

発　　行　青森市教育委員会
〒038-8505　青森市柳川二丁目１番１号
TEL　017－761－4796

印　　刷　株式会社　誠　工　社
〒030-0113　青森市第二問屋町三丁目３－18
TEL　017－729－1611